

令和6年12月定例会代表質問項目

- 1 造血幹細胞移植後のワクチン接種費用の助成制度について
- 2 農作物への有害な影響を与える鳥獣等の対策について
- 3 こうふ愛について
 - (1) こうふ愛醸成係の取組みについて
 - (2) こうふ市民であることのメリットについて
- 4 甲府城南側整備による新たなまちなかの魅力について

(前文)

公明党の兵道です。きょうは前回9月定例会同様、体調も万全ではないなか、同僚議員に無理を言って登壇させていただきました。

我が公明党は先月11月17日結党60年の佳節を迎えました。結党当初、教科書無償化を野党でありながら実現したことはあまりにも有名な話であり、福祉の党である我々の永遠の誉れです。

今でこそ、どの党も当たり前のように「福祉」を口にしますが、我々の先輩が福祉を政治の中心課題に、と訴えた当時は、福祉なんか、と鼻で笑われる状態でした。我々の偉大な先輩は歯を食いしばって、いつかは、と、大衆とともに、そして大衆の中に死んでいく、という他の党にない崇高な立党精神を胸に庶民のために働きぬいてきました。その結果はどうでしょうか。公明党が紛れもなく今日本にとってなくてはならない存在となっています。

我々市議会公明党は、特にここ数年の我々は、こうした先輩たちの苦闘の歴史を受け

繼いで、どこよりも市全体の発展のために、市民全体の福祉の増進のために、偏りのない公平公正な判断の元に議会活動を展開してまいりました。

こうした我々の姿に圧倒的に多くの市民から、公明党がいるから安心、公明党こそ市民全体の利益を考えていると賛辞をいただきました。これからも公明党頼んだよ、という大きなエールです。

我々は立党の指針どおり、たゆまぬ自己研鑽を行って、常識豊かな判断、公平公正な判断ができる議員力を磨いてきました。

そして、本会議で発言して当局と合意形成し、政策を実現していくという議員の本義を確認し合い、樋口市政において重要な政策提言をいくつも行き、ともに市民福祉の増進に寄与してきたのは外でもなくわが市議会公明党と自負しています。政治は結果の世界、本会議で何回発言したところで合意形成に至らなければ政策実現とはなりません。

今回もこうした観点から市民の声を市政に届けて市民福祉の増進という議員本来の職責を果たすためにそして今後もこのことにのみ専心していくことを改めて申し上げて質問に入ります。

Q1 造血幹細胞移植後のワクチン接種費用の助成制度について

我が国では、子どもを病気から守るために、予防接種法に基づきポリオをはじめとする様々な予防接種を受けるべきとされています。接種することで免疫を獲得し、抗体ができることによって、病気の予防が期待できるためです。

ただし、血液の病気の治療のためにいわゆる造血幹細胞移植を行った場合、移植前に実施された定期予防接種により獲得した免疫は低下もしくは消失し、感染症にかかりやすくなります。

そのため、感染症の発生予防、または症状の軽減が期待できる場合には、主治医の指示のもと、定期接種として受けたワクチンの再接種を寛解後順次行っていくことが推奨されておりますが、あくまで予防接種であり治療ではないため医療保険の適用はなく、接種費用は患者ご本人あるいは保護者の全額自己負担となっております。多い方で約20万円もの高額な負担を強いられ、子育て世帯などにその費用負担が重くのしかかり、命と健康を守るうえでは、重く大きな課題です。

また、接種対象年齢時に白血病の闘病中で、予防接種、ワクチン接種を受けられなかったという方もいらっしゃいます。

白血病の治療は治療期間が長く、退院後も免疫抑制剤の薬物療法が必要で、治療自体は健康保険や高額療養費制度などにより、負担の軽減が図られているものの、本来受けることのできた時期に闘病中で予防接種の機会を逃した事例も多くあり、こうした方々は全額自己負担で予防接種を受けなければならず、その負担は計り知れないものがあります。

せっかく白血病が寛解しても感染症の危機にさらされ、特に最近の新型コロナウイルスなど新たなウィルスが猛威をふるう状況などをみると造血幹細胞移植治療による「免疫のリセット」に対処するための予防接種は必要であり、負担を少しでも軽減するための接種費用の助成制度が早急に望まれるところです。

令和元年12月定例会で当時のわが会派の中村議員がこの問題をはじめて取り上げて以来、こうした再接種費用について定期接種化の位置付けを目指すとのことで今日まで推移してきました。

本年9月山梨県は再接種費用の助成制度を設けた市町村に対してその費用の1/2

を助成する制度を創設した、と発表しました。対象者には大きな希望をもたらすものとして、その不安を一刻も早く取り除くためにも県の決断は歓迎すべきものと考えます。

こうした中、本定例会に提出された補正予算第6号には、当該制度に要する経費が予算計上されており、当局のスピーディーな対応に賛辞を贈りたいと思います。

そこで、今回の補正予算の内容について、対象者の把握、助成の規模、実施時期、及び現時点での課題について、当局の見解を求めます。

A1 山村保健衛生部長 造血幹細胞移植後のワクチン接種費用の助成制度について

骨髓移植等の造血幹細胞移植による治療では、抗体が喪失し免疫が減衰することから、造血細胞移植ガイドラインにおいて、移植後の予防接種の実施が推奨されております。しかしながら、その費用は保険が適用されず、接種を受ける方の負担となっている状況であり、造血幹細胞移植により免疫を失った方等の感染症の発症などの不安や予防接種に係る経済的負担の軽減を図っていく必要があると認識しております。

こうした中、本年9月に山梨県が、造血幹細胞移植後の予防接種に係る費用の助成事業の創設を決定したことを踏まえ、本市としては、山梨県の事業を活用することとし、その実施のための補正予算案を本定例会に提出したところであります。

事業の対象者については、山梨県が県内において造血幹細胞移植の治療を行う主要な医療機関等に聞き取りを行い把握した人数や、これまで移植治療を受けた方から本市にお問合せをいただいた件数などを参考とし、事業の内容については、山梨県の助成事業と本市の予防接種事業の整合性を図りながら、**対象とするワクチンの種類や助成額等について検討してきております。**

また、事業の開始に当たりましては、助成対象となる方への周知を課題として認識しておりますことから、今後、移植治療の主な対象となる血液疾患等が含まれる小児慢性特定疾病医療費助成を受給される方や、県内の主要な医療機関をはじめとした関係機関への周知を図るとともに、**希望する方が速やかに助成を受けられるよう、事業開始に向けて取り組んでまいります。**

Q2 農作物への有害な影響を与える鳥獣等の対策について

近年大きな課題となっているのが、苦勞して育てた農作物が野生鳥獣によって食い荒らされ、農家にとって生活の根幹を脅かすほどの打撃を受ける事例の増加、また適正な規模を超えて増えすぎた特定鳥獣によって若芽が食い荒らされ木が枯れてしまう事例の増加など、人と野生鳥獣の共生をいかに図るか、であり、極めて困難な課題です。

有害鳥獣については、農作物被害等が発生している場合に許可を受けて捕獲することが認められ、また一方で増えすぎた特定鳥獣を適正規模とするため、管理捕獲を行っています。

いずれも猟友会の協力をいただいて実施しており、これまでも何回か本議会でも取り上げられ、会員の高齢化、後継者不足など、課題が指摘されてきたところです。

私も一方で動物の殺処分ゼロを訴え、ゆえなく人間の都合で一方的に生命を奪うべきではないことを主張してきましたが、農家の生活の根幹を脅かす、ひいては、人間の生存自体をも脅かすこうした有害鳥獣等の対策については、様々な利益衡量の観点から、やむを得ないもの、と考えています。

ただ対症療法的対応も一方で考えなければならないものの、こうした農作物を食い荒らす鳥獣、また適正規模を超えて増えすぎた特定鳥獣を生み出してしまう原因を探り手を打つことも必要ではないでしょうか。

そこでまず、農作物への有害鳥獣被害の状況についてお聞きするとともに、こうした有害鳥獣を生まないような対策についてどのように考えているのかお聞きします。

次に猟友会にお願いして捕獲してもらった鳥獣の処理についてお聞きします。

原則として持ち帰ること、やむを得ない場合は生態系に影響を与えないよう、埋設など適切な方法で処理を行うことが要請されています。

しかしながら、近年の会員の高齢化等により、現場で埋設等の処理が極めて困難な事例が増えていると伺っており、この場合は甲府・峡東クリーンセンターに搬入して処理する方法もありますが、ここでネックとなるのが、処理手数料の問題です。せっかく捕獲してもらったのに、少くない手数料を取られるのは、会員の皆様のモチベーションをさげる結果にもなりかねず、有害鳥獣等の増加に拍車をかけることも懸念されます。

そこで、こうした猟友会の皆さんの負担を少しでも軽減するために、市として何らかの支援策を講じるべきと考えますが、当局の見解をお伺いします。

A2 樋口雄一市長 農作物への有害な影響を与える鳥獣等の対策について

近年、地球温暖化の影響により、鹿やイノシシなど一部の野生鳥獣の個体数が増加し、生息範囲が拡大することで、農作物に深刻な被害がもたらされております。こうしたことから、本市におきましては、地域の猟友会の協力のもと、農作物を有害鳥獣から守るための有害捕獲や、個体数調整のための管理捕獲を行うとともに、土地改良事業における鳥獣害防止柵の設置などにより、鹿やイノシシによる農作物被害は、最も被害が多かった平成30年度と比べて、令和5年度の被害面積は約42%減、被害金額は約69%減となっております。

一方、被害を受けた農業者にとりましては、単に経済的な損失にとどまらず、営農に対する意欲がそがれ、その結果、離農や耕作放棄につながり、鳥獣被害が拡大するおそれもありますことから、有害鳥獣が山から里へ下りてこないよう、鳥獣の隠れ場所となる藪や耕作放棄地を解消する取組をはじめ、えさとなる農作物の残渣などを放置しないよう農業者へ周知していくなど、人と野生鳥獣の共生を図る様々な対策を講じていく必要があると考えております。

また、地域の猟友会の協力のもとに行っている有害捕獲と管理捕獲は、農作物の被害軽減に大きく寄与しており、埋設などの適切な方法で処理できない鳥獣を甲府・峡東クリーンセンターに持ち込む際の手数料の減免措置など、猟友会の負担軽減の方策について関係機関と協議するよう指示をしたところであります。

今後におきましても、個体数の調整を目的とした適切な管理捕獲の実施や、甲府市鳥獣被害防止計画に基づいた有害捕獲などの対策を切れ目なく講ずることにより、農業者はもとより市民が安全・安心に生活できる環境の確保に努めてまいりたいと考えております。

(1) こうふ愛醸成係の取組みについて

これまで私は、甲府を後にした若者たちが、何かのきっかけで戻ってこようとするときにその背中を押すのが「ふるさとに対する愛着心」であり、幼少のころからその心を育むことが重要と訴えてきました。

そのために、ふるさと甲府で様々な思い出を刻み、事情があつてふるさと甲府を後にしてもふるさとへの郷愁がいつも心の中に居続ける。そんな子どもを主役にした、子どもにとってふるさとへの限りない情愛を育むきっかけとなる取組みを進めるべきことを訴えてきました。

こうした中、「ふるさとに対する愛着心」は「こうふ愛」という形で端的に表現され認知されてきました。実に感慨深いところです。

社会全体が持続可能性のうえで、次の時代を担う若者の存在が極めて重要ということに気付きはじめ、ふるさと甲府にたいする愛着心、すなわちこうふ愛に裏打ちされた若者が担い手として多く登場し、次の甲府を担っていく、そんな理想的な姿を思い描くようになったと言えます。

昨年のヴァンフォーレ甲府、今年の駿台甲府高等学校ハンドボール部の快挙。甲府の名が全国、そしてアジアにまで響き渡ったことは、こうふ愛をますますくすぐり、強くする大きな効果をもたらしてくれたことはまぎれもない事実です。

私がこれまで訴えてきたふるさと愛は、いまや市の組織の中で「こうふ愛醸成係」が設置されるほどになりました。私は少なからず驚きをもってそして期待を込めてその取組みを見守ってきたところですが、こうふ愛醸成係の設置の経緯、そして取組みを通じて目指すところについてぜひお示してください。

(2) 甲府市民であることのメリットについて

先日子育て真っ最中の若いお母さんたちと懇談する機会をいただきました。全員甲府市民で、それぞれ甲府のいいところ、残念なところを率直に語っていただきました。

た。

そのなかでうれしかったのは、ヴァンフォーレおしろランドをべた褒めしてくれたことです。もちろん彼女にはおしろらんどができた経緯、すなわち、平成26年2月の山梨県が孤立した大雪災害の際、たまたま県外調査で帰甲不能に陥ったわが公明党会派が八王子駅ビルで偶然出会ったボーネルンドの施設に感銘を受け、全天候型でしかも遊び方まで指導してくれるその仕組みに、何年かかっても甲府でぜひ実現しよう、と会派全員で誓い合い、以降何回も議会で取り上げ、その結果、令和3年4月24日オープンとなったことを熱く語りました。

韭崎までわざわざ行かなくても、県都甲府で最高の屋内運動あそび場が満喫できる。しかもプレイリーダーがきちんと指導してくれるその施設は、子育て中のお母さん方に瞬く間に拡散し、大繁盛です。

べた褒めしてくれたそのお母さんも話すとき誇らしげでした。これは甲府の施設だと。ただ、市外利用者よりも10円でも安くしてくれないかなあ、ともおっしゃっていました。

そこには、他市と差別化することによってより甲府市民でよかった、誇りに思えてくるという素直な感情が見えてきます。

こうしたことに触発を受け、わたしは、大型遊園施設で割安な年間パスポートを発行していることを思い出し、子育て世帯にこうしたパスポートを発行し、少しでも割安感を感じてもらうのもこうふ愛の醸成に寄与すると確信します。

おしろらんどだけでなく、色々な提携店舗でパスポートが使えるれば若い世代が中心街に押し寄せてくるのではないのでしょうか。

そこで、こうした甲府市民にとって特に子育て真っ最中の世代に有利なパスポートの導入についてご所見を伺います。

A3－(1) 飯田浩明教育部長 こうふ愛醸成係の設置の経緯と取組について

本市は2019年にこうふ開府500年の大きな節目を迎えたところであり、これを機に、先人たちから引き継いだ重層的で多様な甲府の歴史・伝統・文化を次代に継承し、新たなまちづくりにつなげるため、様々な記念事業を実施いたしました。

これらの事業の中で、とりわけ、こうふドリームキャンパス、私の地域・歴史探訪、甲府ラーニング・スピーチの3つの事業を、こうふ開府500年記念事業のレガシー事業として位置づけ、甲府市についてもっと知り、もっと甲府市を好きになる機会の創出につなげ、さらなるこうふ愛の醸成を推し進めるため、令和5年度に教育部の生涯学習課にこうふ愛醸成係が新たに設けられました。

現在、こうふ愛醸成係におきましては、この3つのレガシー事業と、甲府誕生の日である12月20日のこうふ開府の日記念事業を行っており、これらをKOFU NEXT ACTIONの重点施策の1つに位置づける中で、さらなる深化・発展を目指す事業展開を行っているところであります。

このレガシー事業におきましては、子どもたちの夢の育成を促し、地域や郷土への愛着を持つ心を育むことにより、甲府市に住んでよかった、甲府の市民でよかったと感じていただき、また、こうふ開府の日記念事業につきましては、こうふ開府の日を市民の皆様一人一人に認識していただくとともに、こうふ愛の芽生えをさらに成長させ、未永く愛される日となるよう、実施しているところであります。

今後におきましても、市民の皆様にふるさと甲府への誇りと愛着を一層深めていただくことにより、さらなるこうふ愛の醸成を図るとともに、未来に向けた人づくりを鋭意推進してまいります。

A3－(2) 里吉一哲子ども未来部長 ヴァンフォーレおしろらんどの利用者サービスについて

甲府市子ども屋内運動遊び場ヴァンフォーレおしろらんどは、天候に関わらず子どもたちが夢中になって遊べる施設として、令和3年4月の施設オープン以来、指定管理者と連携して、親子の遊びをサポートするプレイリーダーの資質向上をはじめ、SNSを

活用した施設の魅力発信や独自のイベントなどのサービス向上に取り組んだことにより、土曜日、日曜日、祝日においては、定員である75組150名で利用していただくことが増加するなど、これまでに甲府市民をはじめとする県内外約17万人の皆様に御利用いただいているところであります。

また、こうした人の流れを中心市街地のにぎわいにつなげられるよう、地元商店街に御協力いただき、施設利用者を対象とした割引サービス等の実施などにより、まちなかの回遊促進にも取り組んでいるところであります。

施設の利用料金設定につきましては、県都として、また中核市として、先進的に取り組んでいる本市の子どもの運動遊びを多くの子育て家庭に体感していただくとともに、中心市街地に訪れていただくことでまちなかのにぎわい創出にもつながるよう、居住地に関わらず、子ども300円、大人200円として、低廉な利用料金に設定しております。

今後におきましても、ヴァンフォーレおしろらんどが、親子の笑顔がはじける、こども育むまち甲府市のランドマークとして、さらなるこうふ愛の醸成にも寄与できるよう、引き続き、利用者サービスの向上について調査・研究してまいりたいと考えております。

Q4 甲府城南側整備による新たなまちなかの魅力について

いよいよ甲府城南側の目玉施設である「こうふ亀屋座」が出来上がりつつあります。当該エリアの「顔」が次第に形になりつつあります。非常に期待されるところです。

このことが新たなまちなかの魅力を生み出すことは当然期待され、私としては回遊をより現実的なものとするため、再整備される動物園までのルートをストーリー立てて考えるべきだと思えます。

6月定例会でも取り上げましたが、回遊することによる新たなまちの魅力の発見、新たな資源化、人が増えることによるまちの活気の創出などが期待されます。そうしてやがてまちが心地よいリズムを刻み始める。まさにそこに身を置くだけでまたがんばろうという背中を押してくれる、そんなストーリーを今回も語りたと思います。

とにかく、モータリゼーションに支配されつくした意識を転換していくためには、

甲府城南側から再整備中の動物園までを線でつなぐ回遊ルートの提案はストーリー立てることで一層現実的な話となることが確信されます。

多くをくどくど語ることはしませんが、まちなかが再び輝きを取り戻す大きなチャンスではないか。一人一人が自分だけのまちなかストーリーをつかって自分の中でプレイしていく、また、外に向かって発信していく。

はるか半世紀近く前、大学進学のため小平市で初めて一人暮らしをしたとき、若さゆえの無限の妄想とオールマイティになったような錯覚が心地よく自分自身を駆り立てたことを今でも思い出します。

とにかくこの目で実際見て、感じて発見して元気づけられることが、回遊によるまちなかの魅力がもたらす大きなベネフィットだと思います。

私は事情があって戻って来て、今では、この地で結婚して家庭を持ち、曲がりなりにも仕事もさせていただいています。その恩返しの意味も込めて何とかこうふを盛り上げようと日々空想しています。

そこで、甲府城南側整備による新たなまちなかの魅力について、動物園までを視野に入れた回遊ルート確立のストーリーを語ることによってより一層輝かせるべきだと思いますが、ご所見をお伺します。

A4 樋口雄一市長 甲府城南側整備による新たなまちなかの魅力について

私は、県都としての価値をより一層高め、歴史に育まれた豊かなまちなかを次世代に継承していくためには、地域資源の魅力を高め、回遊性が向上することにより、人々が集い、にぎわいあふれるまちをつくることが重要であると考えております。

こうした考えのもと、本市では、甲府城南側エリアや遊亀公園附属動物園、また、岡島百貨店跡地における民間再開発など、新たな核となる拠点づくりとともに、回遊を促すための道路整備を行い、あわせて、その拠点と拠点の間にある公共空間を、熱意ある民間プレーヤーなどの力によって居場所化及び目的地化し、まだ広く知られていないまちなかの魅力を紹介するなど、隠れた資源の発掘や新たな人流の創出に取り組み、ハー

ド・ソフトの両面から様々な事業を推進しているところであります。

甲府城南側エリアにおけるこうふ亀屋座と小江戸甲府花小路につきましては、多くの人の流れを呼び込み、多彩な交流とにぎわいを創出する拠点となるよう、来年4月のオープンに向け準備を進めております。

また、拠点をつなぐルートの一つとなる春日あべにゆうの再整備につきましても、今年度末の完成に向け整備を進めており、その先にある、まちなかの身近な動物園として市民の皆様によく愛されている遊亀公園附属動物園につきましては、獣舎等の整備が進み、新しい動物園が着々とその姿を現しつつあります。

まちなかに求心力のある拠点が整備されることにより、江戸時代の芝居小屋をイメージしたこうふ亀屋座で歴史と文化を感じ、城下のまちなみを歩きながら、小江戸甲府花小路で食事や買物を楽しむ、そこからオリオン通りを通り、かすがも～るから春日あべにゆうや銀座通りへと回遊し、中央商店街や新たな再開発商業施設などで思い思いの時間を過ごし、さらには、その先の遊亀公園附属動物園まで足を伸ばし、家族で楽しい時間を過ごす、そんな、まちなかを楽しむストーリーを思い描くことができます。

こうしたストーリーを広く効果的に発信し、回遊をより現実的なものとする事で、まちなかに多くの人が集い、新たな人の流れが生まれ、にぎわいの創出につながるものと考えております。

今後におきましても、市民の皆様をはじめ商店街や各種団体、企業など、甲府市のまちを支える全てのプレーヤーと私ども行政が手を携え、多くのお客様に「行ってみたい。」「楽しかった。」「また来たい。」と感じていただける、魅力あるまちづくりに精いっぱい取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。